



豊能医療圏 がん医療ネットワーク協議会 2025年度活動報告

〔令和7年（2025年）8月8日〕

市立豊中病院
大阪大学医学部附属病院

組織図

豊能医療圏
がん医療ネットワーク協議会

【参加団体】

- ◆大阪府がん診療連携協議会
- ◆大阪府（健康づくり課）
- ◆ 医師会
- ◆ 保健所
- ◆ 市町
- ◆ ホスピス・在宅診療所
- ◆ 大阪府訪問看護ステーション協会
- ◆ がん診療（連携）拠点病院



がん登録部会

がん情報提供部会

緩和ケア部会

がん地域連携部会

がん相談支援部会

がん看護部会

がん研究部会

がん登録部会

1) 院内がん登録データを用いた現状分析

2022年～2024年の3年分の院内がん登録データから、地域、進行度や治療内容等のベンチマークを作成し、豊能医療圏と三島医療圏における現状について比較、分析を行う。



がん情報提供部会

1) がん教育の推進

- 児童・生徒向けがん教育出前講座に継続的に取り組み、小・中学校に講師派遣を行う。

2) がん医療公開講座の実施検討

- ◆日 時 令和8年（2026年）2月1日（日）午後2時～午後4時30分
- ◆場 所 千里ライフサイエンスセンター
- ◆テーマ 乳がん
- ◆対 象 希望する地域住民 250人
- ◆形 式 がん経験者による特別講演 と パネルディスカッション
- ◆ 特別講演
 - 講師 がん経験者
 - 内容 がん経験者の体験談として、「がん」という病との向き合い方、医療との付き合い方、自分らしく生活するための、モチベーションや活動(仕事や家庭)のあり方などについて
- ◆ パネルディスカッション がんの早期発見、豊能圏域の現状などについて
- ◆費用・財源計画について 「大阪府地域医療介護総合確保基金」活用（100万円）

緩和ケア部会

1) 地域連携リレーシートの普及

- 令和6年度に改定した地域連携リレーシートを、各施設で運用開始しているが、運用開始できていない施設もある。
- 今後、使いにくい等あれば都度共有していく。

地域連携情報シート Ver.2 (リレーシート)		患者 氏名	記載日	年	月	日
前名	生年 月日	性別	記載 者	医師	看護師	MSW
現時点で予測される予後	☐ 日単位 ☐ 半単位 ☐ 2ヵ月 ☐ 3ヵ月 ☐ 6ヵ月以上 ☐					
予後説明 (時期・伝えた相手・内容)	☐ 予後については知らせていない ☐ ()に()に対し()と伝えた					
現状・予後説明の経緯事項 (患者に悪い影響をしない等)						
現在の苦痛な症状と 治療・ケア	☐ 疼痛(部位:) ☐ 悪心嘔吐 ☐ 呼吸苦 ☐ 不安・抑うつ ☐ その他() 副作用で中止した薬剤:() 効果の乏しかった薬剤・治療:()					
医療処置	☐ 末梢静脈点滴 ☐ Vボート ☐ 経皮下注射 ☐ インスリン ☐ 外用薬 ☐ チューブ ☐ 尿道カテーテル ☐ 毛嚢薬 ☐ 肛門 痔 ☐ 創傷 ☐ 気管切開 ☐ 吸引 ☐ 痔瘻 ☐ 瘻 ☐ カテーテル() ☐ 胸腹水穿刺 ☐ その他() カンマーク等は最終投与日()					
状態悪化時、緊急時受け入れ (入院含む)	☐ 原則として可 ☐ 可として不可 ☐ 左記を患者・ ☐ 条件付きで可(具体的内容:) 家族に伝えている					
*ここから上の太枠内は医師が記載。定期内服薬情報、血液検査(時系列で)、画像CD・読影所見をご添付下さい						
現在の状況	☐ 通院中 ☐ 院中(通院予定日:) 今後の通院予定 ☐ 無 ☐					
同居家族	☐ 独居 ☐) 入替らし: 同居家族;					
キーパーソン	☐ 家族・血縁者(続柄:) 氏名: ☐ その他(続柄:) 氏名:					
ADL	☐ 自力歩行 ☐ 助歩行 ☐ ソド上臥床 ☐ 車いす					
食事量	☐ 食べていない ☐ 楽しみ程度 ☐ 少し少ない ☐ 半量 ☐ 全量					
医療保険	☐ 負担割合: ☐ 公費助成等 ☐ 医療 ☐ 病 者(病名:) ☐ 前年度区分: ☐ その他()					
介護保険	☐ 認定有 () ☐ 申請中 (区分変更含む) ⇒認定調査日: ☐ 未申請 ⇒理由()					
訪問看護/ケアマネジャー	() 訪問看護ST () 担当者:					
療養希望施設: (ホスピス機 和ケア病棟、在宅ホスピ ス、施設等)	施設名 () 状況: 施設名 () 状況:					
看取り場所の希望 (複数選択可)	☐ 未定 ☐ 自宅 ☐ ホスピス・緩和ケア病棟 ☐ その他() ☐ 本人と家族の希望が異なる()					
<備考> 例:本人が楽しみにしてい ること、人物像、大切に していること、生活上の 注意点など						
発信元	〒	TEL	FAX	担当:	☐ 別紙参照	

豊能地区がん診療拠点病院ネットワーク協議会・緩和ケア部会 2024. ©作成

緩和ケア部会

2) 地域連携カンファレンス

- ・ 同業務形態（急性期病棟、ホスピス・緩和ケア病棟、在宅医療施設）同士の交流する場をつくり、それぞれテーマを決めて話し合う。

【急性期病棟】

- ・ 他施設がどのように活動しているか、質をどのように担保しながら件数を増やしているのかを話し合う。（急性期病棟が一堂に会して開催予定）

【緩和ケア病棟】

- ・ 緩和ケア病棟のみで実施するのではなく、急性期病棟や在宅医療関連施設の話合いに参加する。

【在宅医療関連施設】

- ・ 訪問診療を実施している医療機関のうち、一定以上在宅看取りを実施した実績のある施設を抽出し、どのように緩和ケアを実施しているのか話し合いの場を持ちたい。（対象施設への周知方法については検討中）

がん地域連携部会

1) 患者向けがん遺伝子パネル検査啓蒙ポスター作成後のモニタリング

- がんゲノム医療非連携病院から大阪大学医学部附属病院および市立豊中病院へのパネル検査紹介数の推移を確認
- 医療従事者対象の認知度調査（2回目）を実施するか検討し、実施する場合は12月末までに準備、1月以降実施

2) AYA患者がタイムリーに捕捉される仕組みについて検討

- 各施設におけるAYA患者への妊孕性温存情報提供の実態を調査
7月末までに調査項目を設定し、その後各施設で調査を行う
12月末までに調査結果を集約し、1月以降でデータ分析行う

がん相談支援部会

1) 就労に関する相談件数の集計と指導料の算定が困難なケースの理由の確認

7月1日～12月31日までの間で就労に関する相談件数を報告し、そのうち、指導料の算定が困難なケースの理由を確認

2) オンライン事例検討の開催

8月と11月にオンラインで事例検討会の開催予定

3) 訪問診療医の情報をリスト化し共有

訪問診療医について各施設の持っている情報をリスト化し共有



がん看護部会

1) ELNEC-J研修の実施

開催当番：大阪刀根山医療センター

募集人数：40～50名

2) 院内研修の相互受入れ研修の開催

各施設が年間計画で予定している研修の一覧を作成し配布

他施設からの参加を相互に受け入れる

院外参加者用の共通アンケートを作成予定

3) 合同研修の開催

年度1回、シンポジウム形式で計画予定

4) 部会

第1回 2025年 5月30日

第2回 2025年 9月

第3回 2026年 1～2月頃予定

がん研究部会（阪大病院単独）

(1)小児がん対策

●小児がん診療に関わる医療機関ネットワークの構築

大阪大学医学部附属病院は、厚労省認定小児がん連携病院、大阪府認定府小児がん拠点病院である。小児がん拠点病院や大阪府内の小児がん診療施設と連携し、特に豊能・北摂地域の小児がん患者の質の高い診断・診療に取り組んでいる。難治性血液悪性腫瘍、固形腫瘍、骨軟部腫瘍、脳腫瘍、網膜芽細胞腫などについては近隣はもちろん、大阪府内から患者が集積しており、小児科、小児外科、眼科、整形外科、脳神経外科などと連携して治療にあたっている。

造血細胞移植も積極的に施行しており、血縁、非血縁（骨髄バンクなど）、臍帯血のすべてに対応している。また、2020年からはキメラ抗原受容体（CAR）-T抗原療法認定施設として、難治性白血病の治療に取り組んでいる。

さらに、AYA世代のがんに対しても積極的に加療を行っている。

妊孕性温存などの生殖医療については、大阪大学生殖医療センターと連携し、綿密な説明のうえ必要性に応じて、卵巣凍結を含む医療提供を行っている。

小児科外来では、治療後の長期フォローアップ外来を設置している。一生を通じて質の高い生活を送ることができるように多診療科による医師、看護師（研修会受講済）、臨床心理士、薬剤師、ソーシャルワーカーなどの多職種による支援を行っている。

(2)造血幹細胞移植の推進

●造血幹細胞移植の現状

同種造血幹細胞移植の件数は年間24件（2024年）である。移植の幹細胞ソースとしては血縁（骨髄、末梢血幹細胞）、骨髄バンク（骨髄、末梢血幹細胞）、臍帯血のすべてに対応しており、昨年は末梢血幹細胞を用いた移植が3/4となっていた。また造血器腫瘍に対する免疫細胞治療としてCAR-T療法を2020年より開始し、2024年は37件施行している。

(3)がん研究の推進

●多施設臨床研究の推進（特定非営利活動法人SCCRE（エスキュール））

がん臨床研究を実施する7つの研究会（消化器がん、乳がん、肺がん、泌尿器系がん、骨髄腫等）を支援している。

●臨床研究中核病院

平成27年8月に臨床研究中核病院の認定を受けた。未来医療開発部の支援の下、がん薬物療法の治験治療等、質の高い臨床研究を推進している。

● がんゲノム医療中核拠点病院

- ・「がんゲノム医療を総括する部門の設置」として、がんゲノム医療センターを設置し、平成30年2月にがんゲノム医療中核拠点病院の指定を厚生労働省より受け、令和5年3月に引き続き指定を受けた。（指定期間：令和9年3月31日まで）

- ・令和7年5月時点で、がんゲノム医療拠点病院（全国に32病院、うち大阪府下2病院）、及びがんゲノム医療連携病院（大阪府下5病院）と協力して、がんゲノム医療の社会実装を推進している。

（協力している大阪府下7病院：【拠点】大阪国際がんセンター、近畿大学病院【連携】大阪公立大学医学部附属病院、大阪急性期・総合医療センター、大阪労災病院、堺市立総合医療センター、市立豊中病院）

- ・平成30年10月より先進医療B「マルチプレックス遺伝子パネル検査」を実施した。（199例登録）

- ・令和元年9月中旬より保険診療下でのがん遺伝子パネル検査の受付を開始している。令和7年5月現在、固形腫瘍に対する検査は以下の5種類を実施している。

OncoGuide™ NCCオンコパネル システム、FoundationOne ®CDx がんゲノムプロファイル、FoundationOne®Liquid CDx がんゲノムプロファイル、Guardant360®CDx がん遺伝子パネル、GenMineTOP®がんゲノムプロファイリングシステム 造血器腫瘍に対するヘムサイト®は、令和7年3月に保険適用となり、5月より受付を開始している。

（令和元年:96件、令和2年:224件、令和3年:255件、令和4年:259件、令和5年：251件、令和6年：275件）

● **がんゲノム医療中核拠点病院**

・令和元年10月から、国立がん研究センター中央病院が調整事務局となり実施する「遺伝子パネル検査による遺伝子プロファイリングに基づく複数の分子標的治療に関する患者申出療養（受け皿試験）」が特定臨床研究として開始された。当院も共同医療機関として実施している。

・令和4年9月より、AMED全ゲノム研究（患者還元班）に参加し、難治がん・希少がんに対する全ゲノム解析研究を実施している。（令和4年度:100例登録、エキスパートパネル開催95例、令和5年度:97例登録、エキスパートパネル開催25例、令和6年度:141例登録、解析終了）



(4)先進医療の推進

●以下の先進医療を現在実施中である（R7.5.1）

1. テモゾロミド用量強化療法 初発時の初期治療後に再発又は増悪した膠芽腫（先進医療B）
2. 術後のアスピリン経口投与療法 下部直腸を除く大腸がん（先進医療B）
3. 術前のゲムシタビン静脈内投与及びナブーパクリタキセル静脈内投与の併用療法 切除可能な膵臓がん（七十歳以上八十歳未満の患者に係るものに限る。）（先進医療B）
4. アナモレリン塩酸塩経口投与 体重減少（食道がんに対する食道亜全摘胃管再建術又は胃がんに対する噴門側胃切除術若しくは胃全摘術を実施したものに限る。）



(5) 人材育成

●がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン（大学院）

110名（2024年度）

（薬物療法、放射線治療、外科治療、緩和医療、医学物理、がん病理、細胞診、がん看護、小児がん、ゲノム医療、創薬など）

